

昭和の森自然観察会

ビオトープの稲わらで正月飾りを作ろう

玉川弘幸（千葉市）

日 時：2019 年 12 月 15 日（日曜日） 13:00～15:00 天気：晴れ

場 所：昭和の森緑地公園事務所

参加者：35 名（うち 子ども 5 名） 緑地公園事務所所長 地引様

担当指導員：5 名 主担当 須田聰恵 木嶋恵子

武田宏子 山下美佐子 玉川弘幸

令和初の正月飾り作りが、多数の参加者を集めて、昭和の森緑地公園事務所主催で開かれた。参加者の皆さんには、事務所の会議室にお集まりいただき事前説明があった。始めに、緑地公園事務所所長より挨拶を頂き、続いて須田指導員より「日本人と稲わらとの関わり」についての話がありました。『今日は稲わらで正月飾りをただ作るのではなく、弥生時代から育ててきた稲との関わりを思い出しながら作って頂きたい。衣・食・住で言えば、食としては、お米を食べる。衣としては、雨具として使われた蓑。住としては、藁を編んで作った今のカーペットや畳の代わりのムシロ等。全て捨てる所が無く、生活の知恵を働かせてきた。以来、稲わらは人々の生活の様々な場面で使われて来た。稲わらは最高のエコである』という興味深いものでした。

木嶋指導員からは、稲わらで作った、エビや宝船、稲縄で作った鍋敷き、編んで作った寒牡丹の雪囲いなどの展示された作品の紹介もありました。会場からは見事な作品に感嘆の声もあがった。

事前説明後は、場所を屋外の作業場に移して、本日のメインイベント正月飾り作りがスタート。事前に用意した稲束が参加者に渡され、指導員の助言、指導のもとに作業開始。まず、和飾りの基本「縄ない」から。稲わらを選び、縄を絞う作業に挑戦。次に、お待ちかねの輪飾りづくりに移る。わらを選び、20 本の束を 3 つ作り 各工程を経て 1 本のしめ縄に仕上げるというもの。手際よく作業をしている参加者にお声がけすると、2 度目との事でした。何名かのリピーターも居られるようだ。皆さんそれぞれ、悪戦苦闘している様子がうかがえる。今回使用の稲わらは、昭和の森公園、ビオトープ親子田んぼの物を使用。最後の仕上げは飾りつけ作業。一番楽しい作業でセンスの見せ所でもある。飾り付けの材料は各指導員が集めたもので、松ぼっくり・稲穂・松葉・ユズリハ・ジュズダマ・フヨウや赤い実物のセンリョウ・ナンテン・カラスウリなどの装飾が華やかさを引立たせている。来たる 2020 年の新年は 30 余通りの正月飾りが皆さんの家の玄関に飾られる事でしょう。

